

研究テーマ	〔 Ⅲ 自分らしさを表現する造形教育を考える 〕 自分の思いに合った材料や表現方法を工夫し、主体的に取り組むことのできる支援のあり方 ～第1学年「メッセージプレートをつくろう」の実践を通して～
-------	--

かすみがうら市立下稲吉中学校 教諭 山口 登

1 研究テーマについて

現在、ゆとりのない生活、社会性の不足、学習活動への満足度の減少、地域社会の教育力の低下などさまざまな問題が生じている。子どもたちの現状を考えると心の面の教育なしに満足していく創造活動は考えられない。他者に対する思いやりや優しさ、心遣いなど人間関係を円滑にしていくものとして、また、生徒の夢や思いを大切に、心の豊かさを培うものとして美術は大きな役割を担っている。

デザインや工芸などの創造活動は他者への理解を十分に必要とする分野である。人間関係が希薄になっているこの社会においては、人と自分の心の趣を重ね合わせたり、相手の考えを想像し気持ちをくみ取ったり非常に大切な活動であるといえる。

また、上記の学習活動への満足度への減少にも通ずることであるが、現在、生徒はつくりだす喜びや充実感を十分に味わっていないという実態がある。現代の我々の生活において、何かを作ろうとする場合、その気になればあらゆる材料や新素材、そして様々な道具を手に入れることができる。しかし、経験の少なさからそれらの多くの素材から目的にあった材料や道具を選び出したり、特性を生かして楽しむまでには至っていない。品物が氾濫しているこの世の中であるから、生徒の見る目は表面的には肥えている。だが、生徒は自ら作り出す作品の良さを十分に知っているとは言い難い。

生徒の学習体験や能力、発達特性などの実態を踏まえ、既習の事柄や新しく学んだことを基にして、生徒が自らの表現意図に合った表現形式や技法、材料などを選択し、創意工夫しながら独創的な表現ができるような指導のあり方を考えていきたい。

2 実践例

(1) 題材名 「生活を豊かに」 ～メッセージプレートをつくろう～

(2) 目標

- ・いろいろな材料の材質に関心を持ち、特徴を感じながら制作する喜びを味わおうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- ・さまざまな材料の特性から作品のイメージを広げて表現することができる。(発想や構想の能力)
- ・材料の特徴を理解し、加工にふさわしい用具や表現技法を工夫して制作することができる。
(創造的な技能)
- ・友達のアイデアや表現方法のよさを味わうことができる。(鑑賞の能力)

(3) 題材について

生活を豊かにするためにはデザインが必要不可欠といった認識は誰もがもっているところであろう。できるだけ快適で楽しく、美しい環境で生活したいと願うことはごく自然なことである。この題材では日々の生活において情報伝達の手段の一つとなっているメッセージプレートを制作していくが、それを

どのように使い、どのようなデザインにするか、その発想段階とそれに続く制作をしていく中で、自分なりの機能美を追求すること、また作品の完成とそれを使う喜びを味わわせていきたい。

この題材については、生徒はものをつくること自体が楽しいから好きだという回答が多く、制作への関心は比較的高いといえる。また、制作においては、これまでに生徒が扱ったことのある素材も多く、既習の方法での制作も可能であるが、新たな制作方法を工夫することで素材に対する関心や知識をさらに高めさせたい。さらに、それぞれの素材のもつ特性を生かしながら自分のイメージにあった作品づくりができるよう支援していきたい。

しかしながら、これまで自分の思い通りにならなかったという理由から、制作を難しいと考えている生徒も少なくない。使いたいと考えている材料にも偏りが見られている。そこで、授業の始めに「ひらめきタイム」を実施することで事前にいろいろな素材に触れさせ、素材の特徴をよく理解させた上でそれぞれの素材の持つよさを生かした制作ができるようにした。

(4) 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いや感じたことを形や色で伝えることの楽しさを味わおうとする。	いろいろな材料からイメージを広げて表現することができる。	自分の思いや感じたことを、材料や表現方法を工夫して表現することができる。	伝えるためのいろいろな形や色の工夫を感じることができる。

(5) 指導と評価計画 (10 時間取扱い)

時間	学 習 内 容 ・ 活 動	評 価 規 準【評価方法】
第1次 ①	教科書や参考作品を鑑賞し、さまざまな作者の感じ方や表現方法（伝え方）の工夫について鑑賞する。	作者の感じ方や伝えるための形や色の工夫を感じ取ることができる。 鑑【観察・学習カード】 身近なデザインに関心をもって、学習のねらいについて把握しようとする。 関【学習カード】
第2次 ②	自分の思いや感じたことを形や色で伝えるための構想を練る。	伝えたいことをいろいろな材料や表現方法からイメージを広げ、見る（伝える）人に共感が得られるように表現するための構想を練ることができる。 発【ワークシート】
第3次 ⑥	自分なりのイメージを大切にしながら、材料や表現方法を自分なりに工夫して制作を進める。 (本時)	構想にあった用具や材料を見つけ、自分の思いや感じたことを、材料や表現方法を工夫して表わすことができる。 技【作品】
第次 ①	友達の作品を鑑賞し、材料の伝え方の工夫のよさなどを感じ取る。	表現の工夫を読み取り、作品のおもしろさを味わうことができる。 鑑【観察・学習カード】

(6) 本時の展開

◇目標

材料の特徴を生かした制作方法を工夫することができる。

◇準備・資料

参考作品（作家，生徒），油粘土，学習カード，ホットボンド，スチロールコート液，
 アクリル曲げ用ヒーター木（角材，輪切り材等），金属（銅板，アルミ板），土（陶土），紙（カラー厚紙），
 発泡スチロール，アクリル板

◇展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 ○発問
<p>1 いろいろなテーマをいろいろな材料で表現する「ひらめきタイム」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「怒り」の形を針金で表現する。 ・人や文字は使わない。 <p>2 本時の学習内容について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>材料に合った制作方法を工夫しよう。</p> </div>	<p>○「怒り」ってどんな形でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切る，曲げる，繋げるといった材料の性質を生かして，そこからイメージを広げさせる。 ・あくまでも形でテーマを表現させる。 ・カードに制作した感想を記入させる。 <p>○前時の学習はどんなことをしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に引き続いて，意欲を持って取り組めるようにする。
<p>3 いろいろな制作用具の使用法について試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホットボンド ・スチロールコート液 ・アクリル曲げ用ヒーター 	<p>○どんな材料に使う用具でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に制作ができるよう用具の扱いに注意を促す。 ・近くに生徒を集合させて実演するが，その際失敗例なども見せるようにしたい。 ・希望する生徒には実際に体験させる。
<p>4 計画に基づいてメッセージプレートの制作を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木（角材，輪切り材等） ・金属（銅板，アルミ板） ・土（陶土） ・紙（カラー厚紙） ・発泡スチロール ・アクリル板 	<p>○どの材料を使えばよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用する材料の変更を希望する生徒にはできる限り対応していく。 ・制作の途中でつまづきのある生徒には助言をして自分の力で解決できるよう支援する。 ・自分で用意した材料や用具等も積極的に活用させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 材料に合った加工方法を工夫しながら進めることができたか。 【作品・観察】</p> </div>
<p>5 本時のまとめをし，次時の課題を設定する。</p>	<p>○この作品はどのようにして作ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作の参考となる作品を意図的に取り上げ，次時への意欲づけとする。

・協力して片づけができるようにする。

3 成果と課題

○成果

自分の発想をどう表現していいのかわからなかった生徒が「ひらめきタイム」を数多く実施していく中で、少しずつではあるが自分の感じる形を見出し、表現することができるようになってきた。そして、同じ言葉（テーマ）でも、人によりいろいろな感じ方があるということに気づくことができたようである。

また、自分の思いを形に表すことがなかなかできなかった生徒も可塑性のあるいろいろな材料に触れる機会を増やしたことにより、いろいろな形や色、材質を工夫して、より自分の思いに近い作品を短時間で制作することができるようになってきた。

作品の鑑賞においては、これまでは学級内の友人の作品を鑑賞するにとどまっていたが、毎回小さな作品を制作しているため展示スペースをたくさん確保することができ、他学級や他学年の同じテーマの作品を鑑賞する機会を持つことができたことから、生徒の関心も非常に高まり、意欲的な制作へと繋げていくことができた。



○課題

「ひらめきタイム」の実施は作品づくりのイメージトレーニングとしても大変効果的だと感じられたが、材料によっては保管の難しいものもあり、使用にあたっての安全性はもちろん、テーマに影響しない色、作りやすい大きさや太さ、長さ、材質といった点にも配慮していく必要がある。さらに、紙テープやひも、アルミ針金、布、綿、油粘土の材料費はわずかといっても、状態によってはリサイクルができなくなってしまう場合もあり、扱い方の注意を生徒にしっかりと伝えておく必要があった。

また、「ひらめきタイム」は授業開始と同時に短時間で実施するようにしているため、生徒の授業への遅れもなくなり、制作への取りかかりが早くなるといったメリットも感じられた。しかしながら、毎時間実施していくとなると肝心のメッセージプレートの制作時間が減少し、逆に生徒の意欲をそいでしまうこともあった。その日の授業計画をよく検討し、実施するかどうかの判断をしっかりとっていくことが肝要であろう。

最後に、今回はテーマを決めて作品に表現するといったことを行ってきたが、生徒によってはそれを難しいと感じ、自分のテーマを決める段階でつまづいている生徒も見られた。そのような生徒に対して今回は個別に話をしながら自分にふさわしいテーマを探っていくが、他に何かもっと有効な方法を考える必要があると感じた。

